

第4期「藤沢市地産地消推進計画」進捗状況について

1. 重点的に取り組む施策

(1) 藤沢産農水産物等の需要拡大・供給強化

【施策の目的】

市内で生産される農水産物等を「藤沢産」と位置づけ、量販店等における藤沢産農水産物等の需要拡大と安定供給を強化します。また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の選手村等大会関係施設に提供する食材の調達基準となる国際水準GAP(農業生産工程管理)等の認証取得への取組を推進するとともに、藤沢産農水産物等のPRに努めます。

No	取組項目	取組内容	令和元年度取組実績	令和2年度取組実績
1	ア 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会での藤沢産農水産物等の供給及び活用	<p>市は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の選手村等大会関係施設で提供する食材は、持続可能性の観点から調達基準に国際水準GAP等の認証取得が求められるため、国際水準GAP等の認証取得に取り組む生産者や生産者団体の拡大に努めます。</p> <p>また、JAさがみと連携し、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、地産地消の観点から花き・植木の利用促進に努めます。</p> <p>なお、藤沢産利用推進店を充実させることにより、本市を訪れた方に藤沢産農水産物等を楽しめる場の提供に努めます。</p> <p>【目標値の設定】 取組項目：ア 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会での藤沢産農水産物等の供給及び活用 目標値：市内事業者における国際水準GAP等の認証取得数 ・現状(平成29年度実績) 2事業者 ・3年後目標値(年間1事業者増加) 5事業者</p>	<p>・片瀬市民センター、弁天橋花いっぱい愛好会と連携し、JAさがみにも協力してもらい、弁天橋に藤沢産花き(ポーテュラカ、ピオラ各150株)を植栽した。</p> <p>【東京オリンピック・パラリンピック開設準備担当】 ・アメリカセーリングチームに対して、藤沢産農産物(梨、藤稔、枝豆、キュウリ、生姜、フルーツマト、トマトジュース)を紹介した。また、農家及び天神小学校の児童等とも交流を図った。</p> <p>【JAさがみ】 ・JAさがみから働きかけを行い、辻堂海浜公園にて花壇の一部に藤沢産の花苗を活用した。(日々草・ペチュニア・マリーゴールド、ブルーサルビア、ペンタス、キバナコスモスなど43,870株)</p> <p>【目標値の達成度】 目標値：市内事業者における国際水準GAP等の認証取得数 3事業者 実績値：2事業者(GLOBAL.G.A.P1事業者、畜産版JGAP1事業者)</p>	<p>・片瀬市民センター、弁天橋花いっぱい愛好会と連携し、JAさがみにも協力してもらい、弁天橋に藤沢産花き(ピオラ各150株)を植栽した。</p> <p>【東京オリンピック・パラリンピック開設準備担当】 ・本市がホストタウンとなっている3国へ向けた応援動画に生産者の紹介をした。</p> <p>・キュンとさせるこのまちで。ふじさわ♡エルサルバドル友情VER 動画作成において藤沢産果物のPRを行った。</p> <p>・Tokyo2020 100 Days to GO! オンラインイベント in 藤沢において、タレント応援のために藤沢産の胡蝶蘭とトマトをプレゼントし、藤沢産農産物のPRを行った。</p> <p>【目標値の達成度】 目標値：市内事業者における国際水準GAP等の認証取得数 4事業者 実績値：2事業者(GLOBAL.G.A.P1事業者、畜産版JGAP1事業者)</p>
2	イ 藤沢産利用推進店の充実	<p>市は、「藤沢産利用推進店」登録店舗数の増加及び「藤沢産利用推進店」における藤沢産農水産物等の需要拡大に向け、藤沢産農水産物等の入手先情報の提供等に努めます。</p> <p>【目標値の設定】 取組項目：イ 藤沢産利用推進店の充実 目標値：「藤沢産利用推進店」登録店舗数 ・現状(平成29年度実績) ひとキュン 109店舗 ふたキュン 27店舗 ・3年後目標値(年間10%増加) ひとキュン 143店舗 ふたキュン 34店舗</p>	<p>・平成31年4月から認定審査の事務を地産地消推進協議会から市に移管し、申請書が提出されてから認定までをスムーズに対応した。</p> <p>・広報ふじさわや各種イベントにおいて、藤沢産利用推進店のPRを行った。</p> <p>・藤沢産農水産物等の入手情報については、農業水産課に問い合わせがあった際に生産者とのマッチングを行った。</p> <p>【目標値の達成度】 目標値：藤沢産利用推進店登録店舗数(年度内登録数) ひとキュン 119店舗 ふたキュン 29店舗 実績値：藤沢産利用推進店登録店舗数(年度内登録数) ひとキュン 83店舗 ふたキュン 29店舗 (参考) ・新規登録店舗数 11店舗 ・廃止店舗数 12店舗</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症で影響を受けた藤沢産利用推進店を応援するため、広報ふじさわにテイクアウト・デリバリー情報を掲載し、PRを行った。</p> <p>・藤沢産利用推進店からの要望を受け、市役所本庁舎において藤沢産農水産物を使用した弁当販売を行った。</p> <p>・藤沢産農水産物等の入手情報については、農業水産課に問い合わせがあった際に生産者とのマッチングを行った。</p> <p>【目標値の達成度】 目標値：藤沢産利用推進店登録店舗数(年度内登録数) ひとキュン 91店舗 ふたキュン 31店舗 実績値：藤沢産利用推進店登録店舗数(年度内登録数) ひとキュン 90店舗 ふたキュン 36店舗 (参考) ・新規登録店舗数 26店舗 ・廃止店舗数 25店舗</p>
3	ウ 量販店等での藤沢産コーナーの設置促進	<p>市は、JAさがみ、湘南藤沢地方卸売市場、漁業協同組合、商工会議所等と連携し、市内量販店等の旬の時期を中心とした藤沢産農水産物等の販売コーナー設置に取り組む、市民への藤沢産農水産物等の供給を促進します。</p>	<p>・地産地消推進事業実行委員会の事業として、3月10日(火)、11日(水)に1店舗、3月14日(土)、21日(土)に5店舗において、マネキン販売員を使用した藤沢産農産物の販売を行い、藤沢産農産物及び地産地消のPRを行った。 ※新型コロナウイルス感染症の影響で、試食は中止し、宣伝販売のみ行った。</p> <p>(参考) 市内量販店35店舗に対して調査を実施。 ①年間を通じて「藤沢産」コーナーを設置している量販店の割合 26%(9店舗) ②不定期(イベント)で「藤沢産」コーナーを設置している量販店の割合 6%(2店舗) ③年間を通じて「地場産」コーナーを設置している量販店の割合 31%(11店舗) ④不定期(イベント)で「地場産」コーナーを設置している量販店の割合 9%(3店舗) ⑤コーナーの設置なし 28%(10店舗)</p>	<p>・地産地消推進事業実行委員会の事業として、農産物にQRコードを貼付し、それを読み取った消費者に対して農産物の特徴や生産者などの情報を発信することで、藤沢産農産物のPRを行った。 ※新型コロナウイルス感染症の影響で、試食宣伝販売(マネキン販売)は中止した。</p> <p>(参考) 市内量販店35店舗に対して調査を実施。 ①年間を通じて「藤沢産」コーナーを設置している量販店の割合 14%(5店舗) ②不定期(イベント)で「藤沢産」コーナーを設置している量販店の割合 3%(1店舗) ③年間を通じて「地場産」コーナーを設置している量販店の割合 26%(9店舗) ④不定期(イベント)で「地場産」コーナーを設置している量販店の割合 3%(1店舗) ⑤コーナーの設置なし 54%(19店舗)</p>

No		取組内容	令和元年度取組実績	令和2年度取組実績
4	エ 藤沢産農水産物等の流通促進	市は、湘南藤沢地方卸売市場、JAさがみ、漁業協同組合等と連携し、藤沢産農水産物等の集荷拡大と安定的確保に努め、市内流通の促進を図ります。	・湘南藤沢地方卸売市場は、JAさがみ藤沢地区の共販額ベースで約37%分の市内産農産物の集荷を行い、流通拡大に努めた。	・JAさがみ藤沢地区共販出荷量(荷受日ベース) 出荷量:4,191.44t 湘南藤沢地方卸売市場 (丸中青果湘南支社)出荷量:1,633.69t 出荷率:38.98%
5	オ 藤沢産農水産物等の表示	<p>市は、JAさがみ、湘南藤沢地方卸売市場、漁業協同組合、加工業者等と連携し、安全・安心、新鮮、おいしい・旬の「藤沢産」を表すロゴマーク及びロゴマークシール等を活用し、「藤沢産」の表示をします。</p> <p>【目標値の設定】 取組項目:オ 藤沢産農水産物等の表示 目標値:藤沢産ロゴマークシールの配布枚数 ・現状(平成29年度実績) 416,460枚 ・3年後目標値(年間10%増加) 555,000枚</p>	<p>・わいわい市藤沢店やイベント等で販売する藤沢産農水産物に「藤沢産」ロゴマークシールを貼り、藤沢産農水産物のPRを行った。</p> <p>・藤沢産農水産物等又は藤沢産利用推進店のPRをする団体等に対して、ロゴマークシールを交付した。</p> <p>・藤沢産ロゴマーク及び藤沢産ロゴマークシールについて、ホームページにおいて利用方法の周知を図った。</p> <p>【目標値の達成度】 目標値:藤沢産ロゴマークシール配布数 458,106枚 実績値:〔「藤沢産」ロゴマークシール作成・配布数〕 (作成)・小シール:600,000枚 (配布)・小シール:435,650枚 (内訳) ・わいわい市:小シール 300,000枚 ・イベント:小シール 1,310枚 ・その他生産者・団体等:小シール 134,340枚</p>	<p>・わいわい市藤沢店やイベント等で販売する藤沢産農水産物に「藤沢産」ロゴマークシールを貼り、藤沢産農水産物のPRを行った。</p> <p>・藤沢産農水産物等又は藤沢産利用推進店のPRをする団体等に対して、ロゴマークシールを交付した。</p> <p>・藤沢産ロゴマーク及び藤沢産ロゴマークシールについて、ホームページにおいて利用方法の周知を図った。</p> <p>・要望のあった、藤沢産ロゴマークの大サイズのシールを作成した。</p> <p>【目標値の達成度】 目標値:藤沢産ロゴマークシール配布数 503,916枚 実績値:〔「藤沢産」ロゴマークシール作成・配布数〕 (作成)・小シール:895,000枚 ・大シール:180,000枚 (配布)・小シール:1,014,400枚 ・大シール:39,660枚 (内訳) ・わいわい市:小シール 730,000枚 大シール 24,000枚 ・生産者・団体等:小シール 284,400枚 大シール 15,660枚</p>

1. 重点的に取り組む施策

(2) 藤沢産農水産物等の学校・保育園給食供給強化

【施策の目的】

給食において、藤沢産農水産物等を活用することは、食に関する知識や農水産業に関する理解を深め、食育の推進を図るとともに、生産者と「顔が見える」関係づくりを通じた地域の活性化、農水産物等を供給してくれる人たちへの感謝の心を育むなどの様々な効果が期待できます。そのため、市は、給食における藤沢産農水産物等の利用品目・供給量の拡大に努めます。

No	取組項目	取組内容	令和元年度取組実績	令和2年度取組実績
6	ア 学校・保育園周辺で生産されている農産物の活用	<p>学校においては、第3期計画でモデル校を3校設定し、その学校周辺で生産されている農産物を給食に供給するシステムを構築しました。第4期計画では、第3期計画においてシステムを構築した学校の課題を精査するとともに、課題の解決を図り、安定・充実したシステムとなるよう努めます。また、モデル校以外の学校においても、構築したシステムが活用できるか検討し、学校周辺で生産されている農産物を学校給食で活用する学校の拡大に努めます。</p> <p>また、保育園においても、新たにモデル園を設定し、保育園周辺で生産された農産物が給食に供給されるシステムの構築について検討します。</p> <p>【目標値の設定】 取組項目：ア 学校・保育園周辺で生産されている農産物の活用 目標値：学校・保育園周辺で生産されている農産物を活用する校数及び園数 (小学校) ・現状数 3校 ・3年後目標数 4校 (保育園) ・現状数 0園 ・3年後目標数 1園</p>	<p>・平成29年度から取り組みを開始している御所見小学校、平成30年度から取り組みを開始している亀井野小学校、俣野小学校については、平成31年度も継続して実施した。なお、課題等の整理を行い、安定・充実したシステムが構築できるよう学期ごとに生産者・関係者と意見交換を行った。</p> <p>・新たに中里小学校をモデル校に加えるため、御所見小と連携をしているごしょみ〜な出荷組合と協議を行い、令和2年度から連携を開始することとなった。</p> <p>・新たにモデル園を設定するため、保育課と意見交換を行った。</p> <p>(使用した品目) 御所見小学校:22品目 (ジャガイモ、キャベツ、小松菜、ダイコン、キュウリ、ナス、カボチャ、ニンニク、タマネギ、ピーマン、長ネギ、サツマイモ、サトイモ、ハクサイ、ニンジン、ゴボウ、ブロッコリー、トマト、サヤインゲン、レタス、枝豆、ほうれん草、かぶ、カリフラワー・ズッキーニ・とうもろこし) 亀井野小学校:9品目 (カブ、ほうれん草、キャベツ、ジャガイモ、カボチャ、キュウリ、アオナ、ブロッコリー、長ネギ、) 俣野小学校:8品目 (カブ、ほうれん草、キャベツ、ジャガイモ、カボチャ、ブロッコリー、枝豆、長ネギ) 中里小学校:16品目 (ジャガイモ、小松菜、ほうれん草、カボチャ、ジャガイモ、ニンニク、ゴボウ、長ネギ、サツマイモ、キュウリ、サトイモ、キャベツ、ニンジン、ダイコン、ブロッコリー、ハクサイ)</p> <p>【目標値の達成度】 目標値：学校・保育園周辺で生産されている農産物を活用する校数及び園数 (小学校)モデル校 4校 (保育園)モデル園 1園 実績値：(小学校)モデル校 3校 (保育園)モデル園 0園</p>	<p>・平成29年度から取り組みを開始している御所見小学校、平成30年度から取り組みを開始している亀井野小学校、俣野小学校については、令和2年度も継続して実施した。なお、課題等の整理を行い、安定・充実したシステムが構築できるよう学期ごとに生産者・関係者と意見交換を行った。</p> <p>・令和2年度から新たに中里小学校をモデル校として取り組みを開始した。</p> <p>・新たなモデル園を設定するため、俣野保育園にて試行的に藤沢産新米「はるみ」の給食提供を行った。</p> <p>(使用した品目) 御所見小学校:25品目 (ジャガイモ、キャベツ、小松菜、ダイコン、キュウリ、ナス、カボチャ、ニンニク、タマネギ、長ネギ、サツマイモ、サトイモ、ハクサイ、ニンジン、ゴボウ、ブロッコリー、トマト、サヤインゲン、レタス、枝豆、ほうれん草、かぶ、カリフラワー・ズッキーニ・とうもろこし) 亀井野小学校:9品目 (カブ、ほうれん草、キャベツ、ジャガイモ、カボチャ、キュウリ、アオナ、ブロッコリー、長ネギ、) 俣野小学校:8品目 (カブ、ほうれん草、キャベツ、ジャガイモ、カボチャ、ブロッコリー、枝豆、長ネギ) 中里小学校:16品目 (ジャガイモ、小松菜、ほうれん草、カボチャ、ジャガイモ、ニンニク、ゴボウ、長ネギ、サツマイモ、キュウリ、サトイモ、キャベツ、ニンジン、ダイコン、ブロッコリー、ハクサイ)</p> <p>【目標値の達成度】 目標値：学校・保育園周辺で生産されている農産物を活用する校数及び園数 (小学校)モデル校 4校 (保育園)モデル園 1園 実績値：(小学校)モデル校 4校 (保育園)モデル園 0園</p>
7	イ 藤沢産農水産物等の利用促進	<p>市は、給食で多く使用される青菜(小松菜、ほうれん草)、キャベツ、ネギ、ニンジン、ダイコンについて、積極的に藤沢産のものを使用するよう努めます。また、藤沢産の米・大豆・小麦・果物・ワカメなどの農水産物等を給食でより活用できるよう関係機関と連携を図ります。</p> <p>【目標値の設定】 取組項目：ア 学校・保育園周辺で生産されている農産物の活用 イ 藤沢産農水産物等の利用促進 目標値：ふじさわランチの回数 (小学校) ・現状回数(平成29年度実績) 6回 ・3年後目標数(年間1回増加) 9回 ※各学期に2回実施しているものを、3回実施とする。 (保育園) ・現状回数(平成29年度実績) 0回 ・3年後目標数(年間2回増加) 6回</p> <p>※ふじさわランチ 旬の藤沢産農水産物等を2品目以上使用して提供する給食で、藤沢産農水産物等のPRもあわせて実施しているものをいう。</p>	<p>【学校給食課】 藤沢産農水産物の入荷時期を考慮し、献立作成を実施した。 ①使用農水産物品目数:36品目 じゃがいも、にんじん、キャベツ、ほうれん草、小松菜、長ねぎ、だいこん、さといも、もやし、ブロッコリー、とうもろこし、きゅうり、なす、えだまめ、トマト、たまねぎ、にんにく、さつまいも、カリフラワー、柿、梨、新米、あいがも米、大豆、藤沢産大豆のきなこ、藤沢産小麦粉、藤沢産小麦粉製品、しらす、やまゆりポーク、牛乳、江の島わかめ モデル校のみ・・・はくさい、かぼちゃ、ごぼう、ピーマン、かぶ ②藤沢産新米による「新米の日」を各校5回実施(8,740kg) ③藤沢産小麦の小麦粉を使用した給食を提供した。(498kg) ④藤沢産大豆を使用した給食をメニューに応じて各校随時使用(2181.2kg) [藤沢産主力品目年間使用量 ※カッコ内は藤沢産使用割合] ・小松菜・ほうれん草 15,497kg(47%) ・キャベツ 16,272kg(51%) ・長ネギ 2,019kg(31%) ・ニンジン 1,938kg(5%) ・ダイコン 4,799kg(29%) ・トマト 1,845kg(89%) ・きゅうり 1,889kg(100%) ※新型コロナウイルス感染症の影響により、3月の学校給食の提供は休止した。</p> <p>【保育園】 ○藤沢産農水産物使用品目数:15品目 きゅうり・もやし・しらす干し・小松菜・ほうれん草・キャベツ・だいこん・ブロッコリー・なす・さといも・とうもろこし・えだまめ・にんにく・さつまいも・じゃがいも</p> <p>【目標値の達成度】 目標値：ふじさわランチの回数 小学校 7回 保育園 2回 実績値：小学校 9回 保育園 0回</p>	<p>【学校給食課】 藤沢産農水産物の入荷時期を考慮し、献立作成を実施した。 ①使用農水産物品目数:37品目 じゃがいも、にんじん、キャベツ、ほうれん草、小松菜、長ねぎ、だいこん、さといも、もやし、ブロッコリー、とうもろこし、きゅうり、なす、えだまめ、トマト、たまねぎ、にんにく、さつまいも、カリフラワー、柿、梨、新米、あいがも米、大豆、藤沢産大豆のきなこ、藤沢産小麦粉製品、しらす、牛乳、はくさい、かぼちゃ、ごぼう、ピーマン、かぶ、湘南和牛、黄にんじん、レタス、ズッキーニ ②藤沢産新米による「新米の日」を小学校各校5回、中学校2回実施(9,560kg) ③藤沢産小麦の小麦粉を使用した給食を提供した。(498kg) ④藤沢産大豆を使用した給食をメニューに応じて各校随時使用(2181.2kg) [藤沢産主力品目年間使用量 ※カッコ内は藤沢産使用割合] ・小松菜・ほうれん草 13,615kg(38%) ・キャベツ 17,607kg(48%) ・長ネギ 2,638kg(14%) ・ニンジン 1,068kg(2%) ・ダイコン 5,847kg(27%) ・トマト 199kg(7%) ・きゅうり 942kg(65%) ※新型コロナウイルス感染症の影響により、4.5月6月16日までの学校給食の提供は休止のため、使用量・ふじさわランチの回数も少なくなっています。</p> <p>【保育園】 ○藤沢産農水産物使用品目数:12品目 小松菜・ほうれん草・もやし・きゅうり・大根・キャベツ・ナス・トマト・さやいんげん・サツマイモ・里いも・ブロッコリー</p> <p>【目標値の達成度】 目標値：ふじさわランチの回数 小学校 8回 保育園 4回 実績値：小学校 3回 保育園 0回</p>

No	取組項目	取組内容	令和元年度取組実績	令和2年度取組実績
8	ウ 生産者等との交流による藤沢産農水産物等への理解促進	市は、給食用農水産物等を供給してくれる生産者、加工業者及び流通業者と園児・児童・生徒との交流を通じて、生産者等の思いや地域の農水産業について話をしてもらうことにより、地域の農水産業の理解促進及び食育の推進を図ります。 また、給食用農水産物等を供給してくれる生産者等に対する感謝の心を育むよう努めます。	<p>・地産地消推進事業実行委員会として、次の2つの事業を実施した。</p> <p>①俣野小学校の2年生が、モデル校の取組として俣野小学校の給食に出荷をしてくれている生産者の圃場に行き、生産者へのインタビュー及びカブの収穫体験を行った。 その中で、生産者の思いや栽培するうえでの苦労話を聞くなど、生産者との交流を図った。 日 時：11月25日(木)10時30分～12時 参加者：俣野小学校2年生約60名</p> <p>②やまゆりポーク生産者協議会は毎年市内の小学校給食にやまゆりポークを寄贈してくれるとともに、神奈川県畜産技術センターの方を講師に招き、畜産授業を行っている。 今回は、この事業と連携を図り、市内の乳牛農家を講師に招いて、市内で搾乳された牛乳等を使用した「ふりふりバターづくり体験授業」を実施し、畜産農家との交流及び畜産業の理解促進、地産地消及び食育の推進を図った。出来あがったバターは、藤沢産の小麦を使用した食パンと一緒に試食をした。 日 時：11月29日(金)10時45分～12時20分 参加者：中里小学校5年生69名</p>	<p>・地産地消推進事業実行委員会として、次の2つの事業を実施した。</p> <p>①市内生産者の協力のもと、稲作の状況や生産者を紹介する動画を作成し、学校給食での新米提供時期とあわせてYoutubeでの動画配信を実施。地域の農業への理解促進、地産地消及び食育の推進を図った。</p> <p>②市内で搾乳された牛乳等を使用した「ふりふりバターづくり体験授業」を実施。当日は、市内乳牛農家の動画出演と農業水産課からの畜産業の紹介もあわせて行った。出来あがったバターは、藤沢産の小麦を使用したコッペパンと一緒に試食をし、畜産業の理解促進、地産地消及び食育の推進を図った。 日 時：1月26日(火)9時00分～12時00分 参加者：俣野小学校5年生54名</p>
9	エ 給食関係職員と生産者等との連携	市は、栄養士、調理員等と給食用農水産物等を供給してくれる生産者等との意見交換会等を実施するなど、給食関係職員が地産地消への理解をより深めるための取組を進めます。	<p>・モデル校となっている御所見小学校・中里小学校、亀井野小学校・俣野小学校において学期毎の振り返り会議を開催し、生産者、JA、学校栄養士、学校給食課、農業水産課で意見交換を行った。</p> <p>・藤沢市学校保健会の栄養士部会において、生産者との交流や地産地消について知り給食献立や食育に生かすための研究を行うため、学校給食の青果の納入に協力いただいている湘南中央商事の見学、農業水産課とさがみ地粉の会が主催する大豆の食育講座の取材、市内梨園の見学、米生産者の見学、プロッコリー・大根の畑収穫体験など、いずれも交流を通してお話を聞いたり体験をして地産地消への理解を深めた。</p>	<p>・モデル校となっている御所見小学校・中里小学校、亀井野小学校・俣野小学校において学期毎の振り返り会議を開催し、生産者、JA、学校栄養士、学校給食課、農業水産課で意見交換を行った。</p> <p>・給食関係職員が集まる場に、生産者を招き、生産している農産物の話や意見交換を行う機会を作る予定であったが、新型コロナウイルス完成賞の影響により意見交換会を実施することができなかったため、稲作動画を作成する際に学校栄養士に協力してもらい、給食関係職員と生産者の交流の場を作るとともに動画作成を行った。</p>

1. 重点的に取り組む施策

(3) 地産地消の普及啓発・健康施策との連携強化

【施策の目的】

藤沢産農水産物等を活用したイベント・講座を充実させるとともに、健康施策との連携強化を図り、地産地消の普及啓発及び藤沢産農水産物等への理解促進に努めます。

No	取組項目	取組内容	令和元年度取組実績	令和2年度取組実績
10	ア 農・畜・水を一体とした藤沢産農水産物等のイベントの開催	<p>地産地消推進事業実行委員会は、農業・畜産業・水産業が一体となったイベントを開催し、農水産物等の販売、家畜や魚とのふれあいコーナーの設置、藤沢産利用推進店による藤沢産農水産物等を活用した飲食物の販売などを行い、地産地消の普及啓発に努めます。</p> <p>【目標値の設定】 取組項目:ア 農・畜・水を一体とした藤沢産農水産物等のイベントの開催 目標値 :来場者数 ・現状数(平成29年度みなど春まつり) 5,000人 ・3年後目標数(年間1,000人増加) 8,000人</p>	<p>3月15日(日)に、農業、畜産業、水産業が一体となったイベント「みなど春まつり～藤沢産をまるごといただきます～」の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。</p> <p>【目標値の達成度】 目標値:来場者数 6,000人 実績値:来場者数 中止</p>	<p>3月14日(日)に、農業、畜産業、水産業が一体となったイベント「みなど春まつり～藤沢産をまるごといただきます～」の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。</p> <p>【目標値の達成度】 目標値:来場者数 7,000人 実績値:来場者数 中止</p>
11	イ 健康寿命日本一をめざす取組との連携	<p>本市では、庁内が一体となって健康寿命日本一をめざすために「リーディングプロジェクト」を策定して取組を進めており、テーマの一つを「バランスよく食べる」として「地産地消による食育の推進」を主要な事業と位置づけています。このことから、「地産地消の普及啓発を図る」イベント・講座においては、食育を推進する関係機関とも協力して、健康寿命日本一の取組との連携を図ります。</p>	<p>健康増進課が実施する健康事業と連携して、野菜の重要性和藤沢産農産物のPR</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康増進課が実施するヘルシーメニューを提供する「健康づくり応援協力店」等に対して、藤沢産利用推進店の制度の紹介をしてもらうよう働きかけを行った。 ふじさわ元気バザール～藤沢野菜市～において、バランスよく食べる「野菜・朝食Plus1(プラスワン)」の紹介を行い、1日350gの目安に野菜を食べようPRを行った。 3月に予定していたみなど春まつりにおいて、健康増進課に出店をして健康増進事業のPRを行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康増進課が健康施策として実施する「ふじさわ夢チャレンジ～ふじさわ歩くプロジェクト～」と連携し、SNS等により、旬の農水産物等の情報を発信してもらい地産地消のPRにつながった。 「ふじさわ元気バザール～藤沢野菜市～」で、健康増進課と連携して健康づくりのための野菜摂取や藤沢産農水産物のPRを行った。
12	ウ 農水産物ふれあい交流イベントの開催	<p>地産地消を推進する上で、消費者と生産者が「顔が見える」関係を構築することは、消費者と生産者の相互理解につながります。市は、関係機関と連携し、園芸まつり農産物品評会、果樹持寄り品評会、湘南花の展覧会、植木品評会、春の畜産まつり、ふじさわ畜産ふれあいまつり、かながわトントンまつり、地引き網漁業体験学習イベント、魚介類の放流体験イベント、ワカメの養殖体験イベント、みなど春まつり等のイベントを開催し、生産者と消費者の交流促進に努めます。</p>	<p>関係団体・機関と連携してイベントを開催し、生産者と消費者の交流促進に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ふじさわ元気バザール～藤沢野菜市～(4月13日、5月11日、6月8日、7月13日、8月10日、9月14日、11月9日、12月14日、1月11日、2月8日) 春の畜産まつり(5月25、26日) 地引網漁業体験学習(7月25日、8月20日) マダイ稚魚放流体験(8月6日) 果樹持寄り品評会(8月21日) 植木品評会(10月19日) コスモスの摘み取りイベント(10月19日) 花育体験イベント(11月10日) かながわトントンまつり(11月10日)※県養豚協会主催 園芸まつり農産物品評会(11月28日) ワカメ養殖体験(12月14日) ワカメ養殖体験(2月22日)※規模縮小して、ワカメの配布のみ実施 湘南花の展覧会(2月14日、15日) <p>※荒天・感染症などのため中止したイベント</p> <ul style="list-style-type: none"> ふじさわ元気バザール～藤沢野菜市～(10月12日、3月14日) 畜産ふれあいまつり(10月6日) みなど春祭り(3月15日) ハマグリ稚貝放流体験(3月26日) <p>【JAさがみ】 JAさがみ各支店にてJAまつり等を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 善行公民館まつり(5月25・26日) 羽鳥支店ふれあいまつり(6月8日) 藤沢支店JAまつり(6月15日) 第31回御所見支店ふれあい祭り(10月19日) JAさがみ遠藤支店2019遠藤JAまつり(10月19日) JAさがみ辻堂支店ふれあいまつり(11月2日) JAさがみ六会地区ふれあいまつり(11月2日) 村岡ふれあいまつり祭り(村岡公民館)(11月9日) 長後支店ふれあい祭り(11月9日) 大庭支店ふれあい祭り(11月9日) 第35回鶴沼支店収穫祭(11月16日) 藤が岡支店JAまつり(11月17日) 辻堂海浜公園「辻堂フラベジフェア」(5月5日) 藤友会村岡即売会(5月4日、12月7日) 	<p>関係団体・機関と連携してイベントを開催し、生産者と消費者の交流促進に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ふじさわ元気バザール～藤沢野菜市～(11月14日、12月12日) 果樹持寄り品評会(8月20日) コスモスの摘み取りイベント(11月7日) ワカメ養殖体験(12月12日) ワカメ養殖体験(2月13日)※中止とし、ワカメの配布のみ実施 <p>※感染症などのため中止したイベント</p> <ul style="list-style-type: none"> ふじさわ元気バザール～藤沢野菜市～(4月～8月、1月～3月) 春の畜産まつり かながわトントンまつり 畜産ふれあいまつり 植木品評会 花育体験イベント 園芸まつり農産物品評会 湘南花の展覧会 地引網漁業体験学習 マダイ稚魚放流体験 みなど春祭り ハマグリ稚貝放流体験

No	取組項目	取組内容	令和元年度取組実績	令和2年度取組実績
13	エ 旬の藤沢産農水産物等の普及イベントの実施	市は、旬の農水産物が多く流通する時期に、藤沢産農水産物等への関心を高めるため、関係機関と連携し、藤沢産農水産物等の普及イベントなどを実施することにより、地産地消の啓発に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・10月11月を地産地消推進強化期間として、ポスター、チラシ、広報等において、藤沢産農水産物や各種イベントのPRを行った。 ・ふじさわ元気バザール～藤沢野菜市～において、7月に花の配布、8月に梨の試食、9月にシャインマスカット、11月に新米「はるみ」の配布を行い、旬の藤沢産農水産物のPRを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月第2土曜日に開催している「ふじさわ元気バザール～藤沢野菜市～」においては、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、11月、12月のみの開催となった。開催された11月、12月においては、旬で新鮮な藤沢産農水産物の販売を行うとともに、消費者と生産者の交流が図られた。また、地産地消推進事業実行委員会として、エコバッグを持参し、買い物された方を対象に11月に新米「はるみ」、12月に花「ピオラ」のプレゼントを行った。 ・市役所本庁舎にて花の展示を行った(7月、12月)
14	オ 地産地消講座の開催	市は、関係機関と協力し、市民向けに藤沢産農水産物等の生産現場の見学会や藤沢産農水産物等を活用した料理講座などを開催し、藤沢産農水産物等に対する知識・理解を深めてもらい、地産地消の重要性を市民に伝えます。	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫体験講座の開催 年3回実施 参加者数54名 ・料理教室講座の開催 年6回実施 参加者数121名 ・食育講座の開催 年1回(全8回) 参加者数30名 ・湘南藤沢地方卸売市場見学 学校数24校、見学者数2,772人 ・片瀬漁港見学 小学校16校1,843名 <p>※新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした講座等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収穫体験型講座(3月7日) ・生産流通現場学習体験事業(3月20日) 	<ul style="list-style-type: none"> ・片瀬漁港見学 小学校6校565名 <p>※新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収穫体験講座 ・料理教室講座 ・食育講座

2. 長期的に取り組む施策

(1) 藤沢産農水産物の付加価値向上に取り組む施策

No	取組項目	取組内容	令和元年度取組実績	令和2年度取組実績
	ア 安全・安心な藤沢産農産物の生産・流通体制の整備			
	【施策の目的】 消費者が求める安全・安心な農産物を提供するため、農業において、食品の安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組であるGAPの推進に努めます。			
15	(ア) GAPの取組の普及	市は、JAさがみと連携し、GAPの普及啓発に努め、国際水準GAPに準拠した取組を行う生産者や生産者団体の拡大に努めます。	【JAさがみ】 ・GAP(農業生産工程管理手法)の普及推進については、JAさがみ『良い農場』点検項目シートを活用し、生産履歴記帳の指導や農薬の適正使用・適正保管管理等を神奈川県農業技術センターと連携し、生産部会員を中心に継続して指導し、部会の進捗状況に応じて個別訪問を行った。	【JAさがみ】 ・GAP(農業生産工程管理手法)の普及推進については、令和2年度は、神奈川県版GAPチェックシートをもとに策定したJAさがみ『良い農場』点検項目シートを用いて農薬保管状況調査を行い、直売出荷者を中心に指導を行った。生産部会員に対しては継続的に各部会活動の中でシートの活用とGAP取組みをすすめた。藤沢市果樹部会では、GAP講習会を開催した。

No	取組項目	取組内容	令和元年度取組実績	令和2年度取組実績
	イ 新鮮な藤沢産農水産物の提供			
	【施策の目的】 消費地に近い都市農業の強みを生かし、新鮮な藤沢産農水産物を消費者に提供します。			
16	(ア) 新鮮な藤沢産農水産物の提供	市は、JAさがみ、漁業協同組合と連携し、直売所や朝市等で新鮮な農水産物を消費者に提供する機会の拡大に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・わいわい市藤沢店、片瀬漁港、藤沢市漁協直売所など各団体と連携し、新鮮な藤沢産農水産物の提供を行った。 ・毎月第2土曜日に開催している「ふじさわ元気バザール～藤沢野菜市～」において、旬で新鮮な藤沢産農産物の販売を行うとともに、消費者と生産者が交流が図られた。また、地産地消推進事業実行委員会として、7月に花の配布、8月に梨の試食、9月にシャインマスカットの試食、11月に新米「はるみ」のプレゼントを行い、旬の農水産物のPRを行った。 【JAさがみ】 <ul style="list-style-type: none"> ・ファーマーズマーケットわいわい市藤沢店実績(期間:H31.4.1～R2.3.31) 営業日数:350日 ※10月12日(土)台風19号のため臨時休業 来店客数:474,701名 《消費者向けイベント》 ・8月、12月に鎌倉女子大学と連携し、生産者から情報を収集し学生の強みである栄養学・食品学・健康情報を発信することにより地場農畜産物の消費拡大を図るイベントを実施した。 ・日本大学と連携し、出荷量の多い品目に注目し学生が考案したレシピの配布および試食を実施し地場農産物の消費拡大を行った。9月(サトイモ・キュウリ・キャベツ) ・消費者へ地場農畜産物の消費拡大のため、出荷者による対面販売を行った。7月(トウモロコシ)9月(キュウリ・キャベツ) ・農業理解の醸成、地場農畜産物の理解、普及拡大のため、6月にトウモロコシの収穫イベントを実施した。 ・花卉、植木の消費拡大のため、4月に「植木フェア」6月に「ハーブ&グリーンフェア」を実施。 ・全農かながわと連携し、旬の農畜産物を使用した試食会を随時開催した。 (参考) <ul style="list-style-type: none"> ・片瀬漁港直売所来店客数 10,543人 	例年毎月第2土曜日に開催している「ふじさわ元気バザール～藤沢野菜市～」が新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、11月及び12月のみの開催となった。旬で新鮮な藤沢産農産物の販売を行うとともに、消費者と生産者の交流が図られた。また、地産地消推進事業実行委員会として、11月に新米「はるみ」、12月に花「ピオラ」のプレゼントを行った(エコバッグで持参で買い物された方のみ)。 【JAさがみ】 <ul style="list-style-type: none"> ・ファーマーズマーケットわいわい市藤沢店実績(期間:R2.4.1～R3.3.31) 営業日数:310日 来店客数:449,830名 プレミアム商品券(500円券):4,986枚(決済回数1,709回 平均2.91枚使用) ※令和3年1月4日(月)より取扱い開始 《消費者向けイベント》 新型コロナウイルス感染拡大予防対策のため、イベントの実施は見送った。 《消費者向けイベントに代わる地場農畜産物のPR等》 ・12月に鎌倉女子大学と連携し、学生の強みである栄養学・食品学・健康情報を活かし、レシピとして配付することにより地場農畜産物の消費拡大を図った。 ・全農かながわと連携し、旬の農畜産物を使用した料理の提案を実施した。 ・季節性を演出した店内レイアウトを実施し、旬の地場農畜産物の消費拡大を図った。 《新型コロナウイルス感染予防対策》 ○休業日の実施 4月25日(土)・26日(日)、5月2日(土)・3日(日)、以降毎週水曜日。 ○時短営業の実施:閉店時間の変更 5月7日(木)より16:00へ変更。 6月15日(月)より17:00へ変更。 令和3年1月14日(木)より16:00へ変更。 令和3年3月25日より17:00へ変更。 ※通常の営業時間:9時30分～18時(3月～9月)・9時30分～17時(10月～2月) ※通常の定休日:毎月第三水曜日・12月31日～1月3日 ○AIサーモグラフィカメラを設置し自動検温を実施。 ○アルコール消毒液の設置。 ○各レジに飛沫感染防止用アクリル板の設置。 ○入場制限の実施。店内換気の実施。
17	(イ) 朝採り野菜の集出荷拡大による供給強化	市は、JAさがみ、湘南藤沢地方卸売市場と連携し、トウモロコシ等の豆類や葉物など鮮度が極めて重要な農産物については、積極的に朝採り野菜を集出荷し、その日のうちに消費者に届けられる体制整備を促進します。	【JAさがみ】 朝採りした春レタス・秋レタス・春キャベツ・トウモロコシを湘南藤沢地方卸売市場に出荷した。 【湘南藤沢地方卸売市場】 集出荷の方法については各種あるがその日のうちに店頭に並び、朝採りであることをPRした。	【JAさがみ】 朝採りした春レタス・秋レタス・春キャベツ・トウモロコシを湘南藤沢地方卸売市場に出荷した。 【湘南藤沢地方卸売市場】 集出荷の方法については各種あるがその日のうちに店頭に並び、朝採りであることをPRした。

No	取組項目	取組内容	令和元年度取組実績	令和2年度取組実績
ウ 藤沢産農水産物等のおいしい・旬の普及啓発・情報提供				
【施策の目的】 市民に、旬の農水産物等の購入場所やおいしい調理の方法等の普及啓発に努めるとともに、インターネットや様々なメディアを通じて藤沢産農水産物等のおいしさと旬の情報を広く伝えます。				
18	(ア) 藤沢産農水産物等のおいしい食べ方等のPR	市は、関係機関と協力し、新鮮でおいしい・旬の藤沢産農水産物等を使用したおいしい食べ方のレシピや藤沢産農水産物等の丸ごと使い切りレシピなどをPRします。	<ul style="list-style-type: none"> ・藤沢市広報番組のコーナー「ふじさわごはん」にて、藤沢産の旬の食材を使用したレシピを紹介した。「ふじさわごはん」で紹介されたレシピや講座で使用したレシピをおいしい藤沢産ホームページに掲載した。 ・湘南藤沢地方卸売市場では、開設者(湘南青果株式会社)が主体となって、市場内情報コーナーにて、旬の湘南野菜を取り上げた「野菜レシピ」を月600部配布した。 ・湘南藤沢地方卸売市場の湘南朝市において、試食月に発行された野菜レシピから1品取り上げて試食会を開催し、来場者への消費拡大及び情報提供に努めた。 (1月、8月を除く毎月1回200食、3月については新型コロナウイルス感染症の影響で試食会は中止した) ・健康増進課では、藤沢市食生活改善推進団体が作成した野菜レシピを配布した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・藤沢市広報番組のコーナー「ふじさわごはん」にて、藤沢産の旬の食材を使用したレシピを紹介した。「ふじさわごはん」で紹介されたレシピや講座で使用したレシピをおいしい藤沢産ホームページに掲載した。 ・「ふじさわ元気バザール～藤沢野菜市～」において、健康増進課と連携し、健康づくりのための野菜接種のPRを図るとともにレシピを配布した。
19	(イ) 藤沢産農水産物等の生産情報の提供	JAさがみは、大型直売所のリアルタイム情報を提供するため、店長ブログで藤沢産農水産物等の生産情報やおいしい食べ方の情報を発信します。	【JAさがみ】 JAさがみホームページわいわい市店長ブログにて「藤沢産」農畜産物の情報発信を行った。	【JAさがみ】 JAさがみホームページわいわい市店長ブログにて「藤沢産」農畜産物の情報発信をおこなった。
20	(ウ) 「おいしい藤沢産」ホームページ等での情報発信・情報交換	市は、関係機関と協力し、ホームページやメールマガジン、フェイスブックなどのSNSを活用して、旬の藤沢産農水産物等や直売所、藤沢産利用推進店、地産地消のイベント・講座などの情報を発信するとともに、生産者が藤沢産農水産物等の情報を投稿できる仕組みにより、新鮮でおいしい藤沢産農水産物等を市民が楽しめるよう情報提供に努めます。 また、メールマガジン「おいしい藤沢産通信」に登録されている方を「おいしい藤沢産サポーター」と位置づけ、地産地消推進事業への参加を促すとともに、同サポーターへのアンケート調査などの取組を推進します。 その他に、テレビやラジオなどのメディアを通じて、藤沢産農水産物等に関する情報提供を行います。	<ul style="list-style-type: none"> ・「藤沢産」農水産物の直売所情報やイベント等の情報をホームページ、フェイスブックで発信した。 ・毎月1回、メールマガジン「おいしい藤沢産通信」で、旬の藤沢産農水産物や直売所の情報を配信した。 ・「おいしい藤沢産サポーター」へのアンケートを実施した。 【広報課】 <ul style="list-style-type: none"> ・CATV番組「ふじさわごはん」にて、藤沢産の食材等を実際に調理しながら紹介することで、地産地消の推進を視聴者にアピールした。(協力:わいわい市、日本大学) ・CATV番組「旬の野菜! 収穫GO」にて、生産者及び藤沢産農産物の紹介をすることで、地産地消の推進を視聴者にアピールした。 ・レディオ湘南「ハミングふじさわ(藤沢市広報番組)」の「おいしい藤沢産」コーナーにて、藤沢産利用推進店及び生産者等の情報を発信した。 (参考) 「おいしい藤沢産」ホームページ利用件数 ①ホームページビュー 463,664件/年 ②おいしい藤沢産サポーター数(3月末時点) 4,616人	<ul style="list-style-type: none"> ・「藤沢産」農水産物の直売所情報やイベント等の情報をホームページ、フェイスブックで発信した。 ・毎月1回、メールマガジン「おいしい藤沢産通信」で、旬の藤沢産農水産物や直売所の情報を配信した。 【広報シティブロモーション課】 <ul style="list-style-type: none"> ・CATV番組「ふじさわごはん」にて、藤沢産の食材等を実際に調理しながら紹介することで、地産地消の推進を視聴者にアピールした。(協力:わいわい市、日本大学) ・CATV番組「旬の野菜! 収穫GO」にて、生産者及び藤沢産農産物の紹介をすることで、地産地消の推進を視聴者にアピールした。 ・レディオ湘南「ハミングふじさわ(藤沢市広報番組)」の「知りたい! 藤沢産」コーナーにて、藤沢産利用推進店及び生産者等の情報を発信した。 (参考) 「おいしい藤沢産」ホームページ利用件数 ①ホームページビュー 249,685件/年 ②おいしい藤沢産サポーター数(3月末時点) 4,635人

No	取組項目	取組内容	令和元年度取組実績	令和2年度取組実績
エ 6次産業化、ブランド化及び高付加価値化への取組に対する支援藤沢産農水産物等のおいしい・旬の普及啓発・情報提供				
【施策の目的】 藤沢産農水産物の付加価値を高めるために、生産者等が行う取組を推進します。				
21	(ア) 藤沢産農水産物を利用した藤沢ブランドの開発支援	市、商工会議所、生産者、事業者等は連携し、藤沢産農水産物を利用した「藤沢ブランド」加工食品の開発と、そのブランド化の取組を推進します。	実績なし	実績なし
22	(イ) 関係機関等と連携した藤沢産農水産物の高付加価値化への取組	市は、藤沢産農水産物の付加価値を高めるために、生産者と関係機関等が連携して行う地域の特性を生かした品種及び加工食品等の開発やPRについての取組を支援します。	【JAさがみ】平成30年度に開発、発売した「藤稔グレープミゼリー」のため、藤稔を提供した。	実績なし
23	(ウ) 6次産業化による藤沢ブランドのブランド力強化の取組	市とJAさがみは、連携して6次産業化の推進に努め、生産者による藤沢産農水産物を利用した加工食品の製造・販売による藤沢ブランドのブランド力強化に向けた取組を支援します。 また、6次産業化を推進するため、「農林水産省関係国家戦略特別区域法第二十六条に規定する政令等規制事業に係る省令の特例に関する措置を定める命令」により、農業用施設とみなされた農家レストランの開設に向けた取組を推進します。	実績なし	実績なし

2. 長期的に取り組む施策

(2)本市農水産業を維持・発展させるため継続的に取り組む施策

【施策の目的】

担い手の育成支援や持続可能な生産環境への支援、生産者と消費者との交流促進を継続的に実施することによって、本市の農水産業の維持・発展を目指します。

No	取組項目	取組内容	令和元年度取組実績	令和2年度取組実績
ア. 担い手の育成支援				
24	(ア) 農業後継者への支援	市は、農業後継者が希望と意欲をもって農業に取り組み、農業経営を安定させるため、農業後継者に対する研修や経営改善に関する取組等を支援します。	農業後継者と意見交換を実施し、令和2年度予算へ反映するため調整を行った。 (参考) ・農業後継者数については、現在、かながわ農業アカデミーが調査中。	農業後継者支援事業として、事業継承するために必要なバックホー導入、ビニールハウスの改修に対し補助を行った。
25	(イ) 新規参入者への支援	市は、農外からの新規参入者や新規参入法人に対し、本市農業の新たな担い手となるよう、参入に関する支援と参入後のフォローアップを実施します。	・就農を希望するものに対し、就農支援を実施した。 ・2市1町からなる湘南広域都市行政協議会の都市農業部会の事業として、新規就農者の農業技術の向上や経営基盤の強化を図ることを目的とし、茨城県にあるトキタ種苗(株)と(株)久松農園の視察を行った (参考) ・農外からの新規参入者数 4人	・就農を希望するものに対し、就農支援を実施した。 ・2市1町からなる湘南広域都市行政協議会の都市農業部会の事業として、新規就農者の農業技術の向上や経営基盤の強化を図ることを目的とし、茅ヶ崎市伊右衛門農園の視察を行った。 (参考) ・農外からの新規参入者数 5人
26	(ウ) 農福連携による担い手の育成	市は、関係機関と連携し、高齢者、障がい者、生活困窮者、困難を抱える若者などの社会参加に対し、農業がその受け皿となり、本市農業の新たな担い手となるための仕組みを構築し、参入に関する支援と参入後のフォローアップを実施します。	高齢者、障がい者、生活困窮者、困難を抱える若者などの社会参加に対し、農業がその受け皿となり、本市の農業の新たな担い手となるための仕組み構築のため関係機関と連携を図った。 農福連携については全国で広がりを見せているが、実際に導入するにあたり、「農業の知識」を持ち合わせた福祉・医療現場の人材不足などが課題となっているため、藤沢市まちづくりパートナーシップ事業として、特定非営利活動法人「農スクール」と連携し、福祉・医療機関職員を対象に農福連携トレーナー育成事業を実施した。 開講日：7月～3月(全10回:座学6回、実習2回、講演会2回) 場 所：藤沢市役所本庁舎、農スクール圃場、Fプレイスホール 受講者：20人	・福祉施設と連携し、障がい者等の受入れを行う農業者に対し支援を行った。 対象者:2人
イ. 持続可能な生産環境への支援				
27	(ア) 環境保全型農業の推進・取り組み支援	市とJAさがみは、エコファーマーや有機農業者等、環境に配慮した農業を実践する生産者の取組を支援します。	・藤沢市水田保全事業を実施し、環境に配慮した水稲生産者に対し奨励金を交付した。 奨励金交付対象者 125人 ・国が実施する環境保全型農業直接支払交付金に取り組む農業者団体に対し支援を行った。 農業者団体 2団体	・藤沢市水田保全事業を実施し、環境に配慮した水稲生産者に対し奨励金を交付した。 奨励金交付対象者 121人 ・国が実施する環境保全型農業直接支払交付金に取り組む農業者団体に対し支援を行った。 農業者団体 2団体
28	(イ) つくり育てる漁業の推進	市は、水産資源の保護・増殖を目的に、地元の漁業協同組合と共同して稚魚・稚貝の放流事業を実施することで、藤沢産水産物の持続的かつ安定した供給に努め、水産業の振興を図ります。	・水産資源の保護・増殖を行い、水産物の持続的かつ安定的な供給を図るため、魚介類放流事業を実施した。 ・サザエ 10,000個 ・ハマグリ 764kg ・マダイ 18,000尾 ・ヒラメ 20,000尾 ・カサゴ 11,000尾	・水産資源の保護・増殖を行い、水産物の持続的かつ安定的な供給を図るため、魚介類放流事業を実施した。 ・サザエ 16,000個 ・ハマグリ 448kg ・マダイ 4,870尾 ・ヒラメ 8,650尾 ・アワビ 15,650個
29	(ウ) 農地の多面的機能の理解促進	市は、生産者及び地域住民、自治会、関係機関と連携して農業資源の適切な保全を図り、あわせて良好な自然景観や環境の形成も含めた農地の多面的機能の理解促進に努めます。	平成30年度で一旦終了した国が実施する多面的機能支払事業の再開に向けて4組織(宮原地区、石川地区、西俣野地区、打戻地区)と調整を行い、令和2年度から西俣野地区、打戻地区の2組織が活動を再開する予定となった。	国が実施する多面的機能支払事業に取り組む活動組織に対して支援し、農地等の環境資源を活かした地域の共同活動を通じて、農地の多面的機能の理解促進に努めた。 活動組織 2組織(西俣野地区、打戻地区)

No	取組項目	取組内容	令和元年度取組実績	令和2年度取組実績
ウ. 生産者と消費者の交流・体験機会の提供				
30	(ア) 援農ボランティアの充実	市は、農業に関心のある市民に対して援農ボランティア養成講座を開催することで、市民の農業への理解促進を図るとともに農家の労働力不足解消に資する取組を推進します。	【援農ボランティア養成講座】 市内2箇所、5月～11月の全20回開催。 受講生10名 講座終了後援農ボランティア登録8人	・援農ボランティア養成講座については、新型コロナウイルス感染症の影響で中止
31	(イ) 農水産業・食品加工業の体験機会の提供	市は、関係機関と連携して、市民が市内農水産業・食品加工業を実際に体験できる機会をつくり、「食」の生産過程を理解できる取組を推進します。	・「地産地消講座～生産流通現場学習体験イベント事業」を3月に予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止とした。	・新型コロナウイルス感染症の影響により計画段階で実施は困難と判断した。

2. 長期的に取り組む施策

(3) 関連する施策との連携

【施策の目的】

地産地消を推進する上で関連する施策を整理し、より効果的に地産地消を推進するため連携を図ります。

No	取組項目	取組内容	令和元年度取組実績	令和2年度取組実績
32	ア 公民館・地域団体等が実施する施策との連携	市は、13地区の公民館や地域団体等が実施する地産地消に関する事業と連携を図ることにより、藤沢産農水産物等の理解促進に努めます。	<p>【六会】</p> <p>①「公民館まつり(野菜・果物の販売)」②「むつ愛プロジェクト(稲作体験)」</p> <p>【片瀬】</p> <p>①「弁天橋花いっぱい愛好会花植え事業(ポテツラカの植栽)」②「弁天橋花いっぱい愛好会花植え事業(ピオラの植栽)」</p> <p>【明治】</p> <p>①「親子クラブ2019～味噌づくり(藤沢産大豆を使用した味噌づくり)」</p> <p>【御所見】</p> <p>①「ぶ～らり御所見ふるさと発見！ウォーキング(ウォーキングのポイントのひとつとして、花農家を巡った)」②「アクティブシニア変化を求めて～寄せ植え(正月飾り)～(花農家を講師として寄せ植え体験講座を実施)」</p> <p>田園パーク構想推進事業として、次の7事業を実施した。</p> <p>③「少年の森にさる菊の挿し木を行った。」④「市民センター花壇に藤沢産サルビア・ジニア・ペンタス・ポテツラカを植栽した)」⑤「御所見夏まつりにおいて、地元で収穫したブルーベリーのデニッシュを提供した)」⑥「少年の森内の花壇に藤沢産ニチニチソウを植栽した)」⑦「御所見文化祭において、藤沢産食材を使用したごしょみ汁、葛原地粉そうめんを衣としたチキンカツを提供した)」⑧「市民センター及び少年の森の花壇に藤沢産ピオラを植栽した)」⑨「市民センターの花壇に藤沢産ノースポール、姫キンギョソウを植栽した)」</p> <p>【遠藤】</p> <p>①「遠藤竹炭祭(筍汁の無料提供、野菜の販売)」②「遠藤あじさいまつり(野菜、果実を使用したジャムの販売)」③「小出川彼岸花まつり(野菜・焼き芋・よもぎ団子の販売)」④「公民館まつり(野菜・鉢花・焼き芋の販売)」⑤「郷土散策～遠藤の秋を探そう～(散策の途中で、柿もぎ、焼き芋・梨・ぶどうの試食)」⑥「遠藤朝市(地元野菜の豚汁・焼き芋の無料配布、野菜・果実を使用したジャムの販売)」</p> <p>【長後】</p> <p>①「家庭菜園の始め方～ミニトマト編～(地元農家指導のもと、プランターでできる野菜作りを学ぶ)」②「子どもクッキング1,2(地元野菜を使用した調理実習)」③「公民館まつり(野菜の販売)」④「地産地消のつどい～長後を食べよう！～(地元野菜を使用した食べ物の販売、藤沢漁港出張販売など)」</p> <p>【辻堂】</p> <p>①「公民館まつり(野菜の販売)」②「辻堂朝市(毎月2回、野菜と魚介類等の販売)」③「みんなで美化キャンペーン(歩道脇の花壇等にパンジーを植栽した)」</p> <p>【善行】</p> <p>①「善行子ども探検隊kids～善行の畑で育った落花生を茹でて食べよう～(落花生を収穫し、茹でて食べる)」</p> <p>【湘南大庭】</p> <p>該当なし</p> <p>【湘南台】</p> <p>①「地域福祉を支える会(地元で採れたジャガイモの試食)」②「親子ふれあい農園(さつまいもの苗植えから収穫まで)」</p> <p>【鶴沼】</p> <p>①「鶴(くぐい)まつり(海産物や野菜の提供、鶴沼魚醤を使用した料理の提供)」②「さつま芋堀り(さつまいもの収穫)」③「公民館まつり(野菜・花の販売)」④「くげぬまあそび隊(栄養士から食について学び、商店街で地元野菜を購入し、調理実習を行う)」</p> <p>【藤沢】</p> <p>①「田園体験学習(米作りを体験し、収穫した米で餅を作り食べる)」②「夏休み子ども料理教室低学年食べ比べしてみよう！餃子づくり(学校給食課を講師に招き、餃子づくりをした。その時に藤沢産トマトの食べ比べを行った。)」</p> <p>【村岡】</p> <p>①「小学生学級 きらりっこ(苗植えから収穫まで。収穫は雨天中止)②「じゃがいもほり(じゃがいもの収穫体験)」③「公民館まつり(野菜の販売)」④「村岡マヨやきそばの販売(地元の食材使用したやきそばの販売)」</p>	<p>【六会】</p> <p>①むつ愛プロジェクト(稲作体験)②しめ飾り作り③花苗育成及び配布(パンジー、マリーゴールド)</p> <p>【片瀬】</p> <p>①「弁天橋花いっぱい愛好会花植え事業(ポテツラカの植栽)」②「弁天橋花いっぱい愛好会花植え事業(ピオラの植栽)」</p> <p>【明治】</p> <p>該当なし</p> <p>【御所見】</p> <p>田園パーク構想推進事業として次の5事業を実施した。</p> <p>①「少年の森にさる菊を植栽した。」</p> <p>②「御所見市民センター内花壇に藤沢の花を植栽した。(ポテツラカ 200苗、日々草、ケイトウ 各100苗)</p> <p>③「少年の森内花壇に藤沢の花を植栽した。(キバナコスモス500苗)</p> <p>④「開発した御所見グルメ「ごしょみ汁」の学校給食メニューとして提供した。(御所見小、中里小)</p> <p>⑤「御所見市民センター内及び少年の森内花壇に藤沢の花を植栽した。(チューリップ球根 40個、パンジー、ノースポール 各400苗、芝桜510苗)</p> <p>【遠藤】</p> <p>①小出川彼岸花まつり(野菜の販売)</p> <p>【長後】</p> <p>①「家庭菜園の始め方～ミニ白菜編～(地元農家指導のもと、プランターでできる野菜作りを学ぶ)」</p> <p>【辻堂】</p> <p>①「辻堂朝市(毎月2回、野菜と魚介類等の販売)」</p> <p>②「みんなで美化キャンペーン(歩道脇の花壇等にパンジーを植栽した)」</p> <p>【善行】</p> <p>①「善行子ども探検隊kids～栗拾い体験～(地元の畑の栗拾い)」</p> <p>【湘南大庭】</p> <p>該当なし</p> <p>【湘南台】</p> <p>①「地域福祉を支える会(地元で採れたジャガイモの提供)」</p> <p>【鶴沼】</p> <p>①「さつま芋堀り(さつまいもの収穫)」</p> <p>【藤沢】</p> <p>該当なし</p> <p>【村岡】</p> <p>①村岡マヨやきそばの販売(地元の食材を使用したやきそばの販売)</p>

No	取組項目	取組内容	令和元年度取組実績	令和2年度取組実績
32	ア 公民館・地域団体等が実施する施策との連携	市は、13地区の公民館や地域団体等が実施する地産地消に関する事業と連携を図ることにより、藤沢産農水産物等の理解促進に努めます。	<p>【健康増進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月に実施した「食生活改善推進員等養成講座」及び6月、12月に実施した「食サポーター養成講座」において、市の食育に関する取り組みの紹介の中で、藤沢産利用推進店や地産地消推進計画について紹介をした。 ・藤沢市食生活改善推進団体に委託し、市内13公民館において健康づくりにつながる講座(講話及び調理実習)を実施し、農水産物・食品の理解促進に努めた。時期7～12月、全13回実施、参加者数合計246名 <p>【青少年課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤沢市少年の森である「藤沢ごしょみ産アウトドアクッキング！食べて知る地域の魅力」において、藤沢産の肉・野菜を焚火で調理して食べた。(豚肉・米・すくなかぼちゃ・かぶ・小松菜・冬瓜・里芋・ジャガイモ・黒大豆) ・「つじせいキッチン」(4月、6月、8月、10月、12月、2月) <p>社会福祉協議会の農福連携事業で提供いただいた藤沢産農産物を使用し、子ども達と一緒に調理し、食べた。</p> <p>【スポーツ課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秩父宮記念体育館植栽敷地の花壇において、藤沢産の花を植栽し、グリーンカーテンを設置した。 <p>5月:ポータユッカ、サルビア、マリーゴールド 300株、ゴーヤ 40株 8月:シニア、コスモス、コリウス 300株 11月:パンジー、ビオラ、ミニハボタン、ノースポール 300株 ・12月に石名坂地域感謝祭において、お汁粉、豚汁の材料として地元の野菜、米を使用した。また、野菜、米の販売をした。</p> <p>・秋葉台公園内の花壇に藤沢の花を植栽した。</p> <p>5月:サルビア、ノースポール、ゴーヤ 1,125株</p> <p>【みどり保全課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務委託において、市民センター等に藤沢産の花苗を植栽した。(マリーゴールド他5種、10,625株) ・業務委託において、藤沢駅南口デッキ通路等に藤沢産の花苗を植栽した。(パンジー他4種、1,315株) ・藤沢市緑と花いっぱい推進の集い記念事業グリーンキャンペーンにおいて、「藤沢市みどり基金」への寄付に協力いただいた方に藤沢産の花苗を配布した。(ビオラ150株) <p>【郷土歴史課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者を通じて、ふじさわ宿交流館において、藤沢産の食材を用いた「謹製藤澤宿御弁当」の販売取次を行った。 <p>【公園課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親水公園まつりにて、藤沢産農産物の販売及びPR、藤沢産利用推進店による飲食物の物販を行った。 ・公園整備工事の中で、藤沢産のオオシマザクラ、コナラ等の植栽をした。 <p>【子ども健康課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初妊婦対象の「マタニティランチ」で「妊娠中の栄養」・「バランスよく食べる」の講義を行い、市内産の野菜摂取について啓発を行った。計16回・参加者合計211人 <p>※3月は新型コロナウイルス感染症の影響で未実施。</p> <p>【文化芸術課】</p> <p>藤沢市民会館内のレストランが藤沢産利用推進店となり、藤沢産農水産物を使用したメニューを提供した。</p>	<p>【健康増進課】</p> <p>該当なし</p> <p>【青少年課】</p> <p>該当なし</p> <p>【スポーツ課】</p> <p>該当なし</p> <p>【みどり保全課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務委託において、市民センター等に藤沢産の花苗を植栽した。(パンジー2,634株 ノースポール781株) ・業務委託において、藤沢駅南口デッキ通路等に藤沢産の花苗を植栽した。(マリーゴールド他4種、1,315株) <p>【郷土歴史課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者を通じて、ふじさわ宿交流館において、藤沢産の食材を用いた「謹製藤澤宿御弁当」の販売取次を行った。 <p>【公園課】</p> <p>該当なし</p> <p>【子ども健康課】</p> <p>該当なし</p> <p>【文化芸術課】</p> <p>藤沢産利用推進店である藤沢市民会館内のレストランで、藤沢産農水産物を使用したメニューを提供した。</p> <p>藤沢市民会館庭園管理業務委託において花壇の植え替えについて、藤沢産の花弁を使用した。</p>
33	イ 観光施策との連携	市は、関係団体と協力し、藤沢産農水産物等の生産活動と観光施策を連携させた事業を実施することにより、生産者と消費者の交流促進を図るとともに、藤沢産農水産物等が広く普及するよう努めます。	<p>【観光シティブロモーション課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月23日に公益社団法人藤沢市観光協会と協力し、長後地区にて農業や地場産業を紹介し、収穫ができる参加体験型の収穫観光ウォークラリーを開催した。(参加者111名) ・旅行情報誌のブランド力を活用した観光パンフレットとして、「るるぶ特別編集藤沢」を13万5千部製作し、ふじさわの特産品や「藤沢産利用推進店」等を掲載し、藤沢の魅力として紹介。市内観光案内所及び誘客キャンペーンでの配布のほか、宿泊施設等での配布により広くPRを行った。(令和元年6月発行) 	<ul style="list-style-type: none"> ・11月14日に公益社団法人藤沢市観光協会と協力し、遠藤地区にて農業や地場産業を紹介し、収穫ができる参加体験型の収穫観光ウォークラリーを開催した。(参加者118名) ・旅行情報誌のブランド力を活用した観光パンフレットとして、「るるぶ特別編集藤沢」を12万部製作し、ふじさわの特産品や「藤沢産利用推進店」等を掲載し、藤沢の魅力として紹介。市内観光案内所及び誘客キャンペーンでの配布のほか、宿泊施設等での配布により広くPRを行った。(令和2年7月発行)
34	ウ シティブロモーションとの連携	市は、地産地消の取組を推進することで、藤沢産農水産物等の魅力を高めるとともに、市民が自らその魅力の発信者になるような取組について推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ・市の公式 Mascot である「ふじキュン♡」と農水産物がコラボレーションしたチラシ等を作成した。 ・湘南花の展覧会に「ふじキュン♡」に来てもらい、来場者が楽しみながら地産地消に触れることができた。 <p>【観光シティブロモーション課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月9日、22日にふじさわファンクラブのイベントとして、「藤沢のおいしい農家鍋を調べて作って食べよう！」を開催し、藤沢の農家に伝わる鍋料理を調査し、レシピを考え、藤沢産の食材を使い、調理をし、試食をした。(参加者20名) ・テレビ放映や雑誌等への掲載を促し、藤沢の魅力を広範に発信することを目的としたメディア向けプロモーションブックを5,000部制作した。その中で、「藤沢の食物語」として、カマス、キクイモ、トマトを掲載した。また、「今、藤沢は農業が面白い」のコーナーで、5人の生産者を掲載し、藤沢の農業や生産物について紹介をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市の公式 Mascot である「ふじキュン♡」と農水産物がコラボレーションしたチラシ等を作成した。 <p>【広報シティブロモーション課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・YouTubeで朝採れトウモロコシを使った冷製スープのレシピを紹介した。 ・Twitter等で生産者と農水産物の紹介を行った。